

瓢湖の再ブランディングについて

1 瓢湖を阿賀野市の観光窓口に

今ちょうど白鳥が飛来していますが、夏場の弱さがあります。それから地元の人にも一度来たら、もういいかなというところもあります。瓢湖の魅力を発信する活動をしています。

①瓢湖のデザインの統一

英語表記にすることによってインバウンドにも対応しました。

②夏場のプロモーション

市外へオリジナルアイスクャンディーを販売して瓢湖のプロモーション活動を行いました。冷凍庫は持ち運びが可能で学生のお小遣い稼ぎにもなります。

③誰かの「押し活」の場として

白鳥だけではなく、瓢湖が好きという方の「押し」を応援。夏場にバイク(カブ)を利用したツーリング客が瓢湖に立ち寄れるような取り組みをしました。その一環で、お店の看板の代わりにカスタマイズしたカブを置いてもらうなど、仲間を増やす活動もしました。

④瓢湖の多面的活用方法の模索

観光地だけではなくて、水鳥の楽園としての魅力を追求することが出来ないかということです。これは現在のメンバーだけではなかなか難しく皆さんと取り組んでいけたらと思います。例えば、カフェをひらくとかツーリングのためのカブの設置場所を設けるなどの意見があります。そうした意見をま

とめて実施できるようになればいいと思います。

瓢湖だけではなく、地域の観光に関していろいろな意見を出し合える環境づくりをしていきたいと思っています。現状瓢湖というと行政が主体になっています。管理事務所や商工観光課、白鳥を守る会などありますが、保守的な活動に留まっています。こうしたらという意見の中で1年にひとつは実現する。そのために日々変化を作り、それで支援者・ファンが増えていく。そうすることによってクラウドファンディングを活用したりして資金面での協力が得られるようになるのではと思います。

例えば、(個人的な意見として)観光としての瓢湖と自然としての瓢湖を両立していく。観光としては白鳥おじさんの餌やりなどありますが、施設が老朽化し案内看板が少ないので釣り禁止のルールを明確化し改善するなど。自然としてはまだ東新池などは手つかずの自然が残っているのでビオトープとして整備するなど。

瓢湖がかかえる課題としては、

白鳥おじさんや白鳥を守る会の会員が高齢化して後継者がいないという課題は行政だけではなく、地域全体として考えるべきではないかと思っています。桜並木のソメイヨシノも老朽化しています。結桜を有志の方々が植樹してくれていますが、まだ本数が足りなかつたり育っていなかつたりします。早急に対応しないと桜が見られない年が発

生する恐れがあります。

また、白鳥おじさんのエサやりの正当な理由の共有ですが、野生の鳥に餌をやるのはどうかという意見が来ます。それに対して行政も白鳥を守る会も当組合もその場しのぎの回答をしているのが現状です。共通の回答を得たいと思っています。ポン菓子販売については、余計な物をあげさせないための抑止になっています。白鳥おじさんについては、初代の吉川重三郎さんが餌をやることによって白鳥が飛来することになったという文化を伝えるために行っているとか。

白鳥の里、リズムハウスの活用については民間の方に入ってもらったほうがいいと思います。

最後に、なぜ瓢湖観察舎の組合長を引き受けることになったかという、自分が瓢湖で何ができるか10分考えて100個以上のアイデアが出たので、継続できると思いました。

事前にロータリークラブの皆様アンケートを取らせていただきました。その中で重要なポイントは「瓢湖の未来を考える時に重要なことはなんですか」の設問に対する回答で、1番は環境保全、2番は観光整備でした。

また、阿賀野市の好きなところ、好きではないところの設問で、好きではないところをどうやったら好きになれるかを考えてもらえるといいかなと思います。また、将来に向けて何が必要かの設問には、いい意見があったので是非実現していただくか、実現できる方にア

ドバイスしていただければと思います。